

日本獣医師会獣医学術学会誌投稿の手引き

(令和5年5月1日 日本獣医師会)

1 目的

本手引きは、日本獣医師会獣医学術学会誌投稿規程(以下「投稿規程」)に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に、投稿規程に記載のない、一般的な事項、編集において必要な事項、著者が見落としやすい事項等を示したものである。

2 投稿資格及び条件関連

- (1) 筆頭著者は、日本獣医師会構成獣医師若しくは賛助会員(個人に限る)でなければならない。それ以外の者が筆頭著者の場合は、投稿料を徴収する(投稿時審査料10,000円、採用時掲載料50,000円を納入する)。ただし、編集委員会が認めた者については、この限りでない。
- (2) 発表者は、原則として8名以内とし、研究材料提供等については、謝辞で記載する。
- (3) 投稿原稿は、獣医学が扱う臨床、動物衛生、食品衛生、環境衛生、人と動物の関係、獣医学教育、動物用医薬品・機器等を内容とする、獣医学術の振興・普及及び調査研究の推進に関する学術論文等を範囲とし、委員会において、掲載に相応しい学術分野を指定する。
- (4) 他の学会誌等に投稿中、若しくは発表した論文等は受け付けない。なお、口頭による発表はこの限りでない。

3 投稿要領関連

(1) 投稿の方法

- ア 投稿は、本会投稿用ホームページの電子投稿システム「ScholarOne Manuscripts™」で行う。
- イ 原稿は、本会投稿WEBサイト上の投稿マニュアルに従い、必要事項を記入した後、本文(表紙から引用文献までを1つのファイルに集約し、ファイル名を「氏名-本文.拡張子名」とし、Word/doc, docx形式で保存する)、図(すべての図を番号順に1つのファイルに集約し、ファイル名を「氏名-図.拡張子名」とし、白黒1200dpi以上、グレースケール及びカラーは300dpi以上(ただし、写真はカラーのみ、掲載は白黒印刷)でPDFあるいは、PowerPoint/ppt, pptx形式、Word/doc, docx形式、Excel/xls, xlsx形式、Photoshop(Jpeg, Tiff)/jpg, tiff形式で保存する)、表(すべての表を番号順に1つのファイルに集約して、ファイル名を「氏名-表.拡張子名」とし、Word/doc, docx形式、Excel/xls, xlsx形式(映像化は不可)で保

存する)を同サイト(<https://mc.manuscriptcentral.com/jvma>)にアップロードする(ファイル合計60MB以内)。

(2) 原稿の体裁

原稿は、A4判縦で余白を上下左右25mm、文字色は黒、字体は日本語はMS明朝、英語はCentury、字の大きさは12ポイント、行間はダブルスペースとし、横書きで欄外下部中央にページ及び左欄外に行番号を付す。

なお、修正原稿については、修正箇所は青色の文字で記載する(見え消しや注釈機能等の変更履歴機能は用いない)。

(3) 原稿の長さ等

- ア 原稿は、表題、和文要約、英文要約(SUMMARY)、本文、図(写真を含む)・表等すべてを含み、その長さは、投稿区分毎の刷り上り規定枚数(別表)内に収める。
- イ 刷り上り1頁あたり最大2,400文字を記載できるが、図表を入れる場合、その数と大きさには、本文等の文字数との兼ね合いを十分考慮しなければならない。

(4) その他

以上の事項を逸脱した原稿については、審査以前に再提出を依頼する。

【別表】掲載区分及び刷り上り規定枚数

掲載区分	刷り上り規定枚数
総説	6頁以内
原著	5頁以内
短報	4頁以内
技術講座	4頁以内
資料	2頁以内

4 執筆要領関連(原著及び短報)

(1) 用語:

- ア 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り(例:人、犬、猫、牛、豚、鶏、馬、羊等)、それ以外のものはカタカナで表示する。
- イ 薬品名は、原則として一般名若しくは局方名を使用し、カタカナで記載する。また、機器名は原則として一般に使用される名称を和文で表示する。
- ウ 本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品(製品)名及び社名等は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる(商品(製品)名、社名、都道府県名の順/例:ニチジュウワクチン、日獣製

業(株, 東京). ただし, 本文中に既出の商品(製品)については, 2回目以降は社名, 都道府県名は省略してもよい.

(2) 表紙(第1頁):

ア 最上段左側に部門名, 希望投稿区分及び「新規」(新規投稿原稿の場合)あるいは「継続」(継続審査原稿の場合)の表示を赤字で明記する.

イ 次いで, 表題, 著者名, 所属機関名(大学は学部名, 都道府県勤務は支所名(本所は部名), までとし, 「〇〇動物病院」⇒「〇〇県 開業」(県名は所属獣医師会または所在地名), 「株式会社」⇒「(株)」, 「公益(一般)社団法人」⇒「(公(一)社)」, 「公益(一般)財団法人」⇒「(公(一)財)」, 「独立行政法人」⇒「(独)」, 「国立開発研究法人」⇒「(国研)」, 「特殊法人」⇒「(特)」等とする.)及び所在地住所(郵便番号を含む. 併せて, 実際の動物病院名も記す.)を和文で記載する.

ウ 表題は原則として副題, 括弧, 略号, 「～について」, 「～に関して」等は付けない.

エ 最下段には連絡責任者の所属(大学は教室名, 都道府県勤務は係名まで, 動物病院等は, 実際の名称を記載), 住所, 電話番号(ファックス番号), メールアドレスを記入し, 別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する.

オ 表題が28字を超える場合には, 28字以内の柱(ランニングヘッド)を記入する.

(3) 和文要約(第2頁):

字数は360字以内とし, 要約の最下段には, 原著では5語以内, 短報では3語以内の日本語のキーワードを英文のKey wordsに対応する順で記載する.

(4) 英文SUMMARY(第3頁):

ア 英文の表題, 著者名, 著者の所属機関名, 所在地住所(郵便番号を含む), SUMMARY及びKey wordsを記載する.

イ SUMMARYは, 250語以内とし, 行間を広く空けて記載する.

ウ SUMMARYはなるべく和文要約に対応した記載にする.

エ Key wordsは, SUMMARYの最下段にABC順で記載する.

(5) 本文(第4頁以降):

ア 原則として, ①緒言(見出しは付けない), ②材料及び方法, ③成績, ④考察, ⑤引用文献の項目に区分して記述し, 数字を用いて項目分けしない.(ただし, 短報では必ずしも, この区分で記述する必要はない).

イ 実験動物等の取り扱いについては, 所属研究機関の動物実験ガイドライン(指針)等や日本学術会議が

作成した「動物実験の適正な実施に向けたガイドライン」, 国際的な動物実験の基準理念である「3Rの原則」に沿って実験を行った(または動物実験委員会の許可を得て実験を行った)旨を明記した上で, 動物の苦痛を和らげる方法について具体的に記述し, 当該動物を使用して実験を行う必要性と意義を説明し, 併せて動物の入手方法と飼育状況を具体的に記載する.

ウ 図(写真)・表

(ア) 図(イラストレーションを含む)は, 原則として黒一色とし, A4版の白紙を用いて, 表題を付け, 原図から直接製版できるものとする.

(イ) 表は, 縦罫線を入れない.

(ウ) 写真は, デジタル画像を用い, カラーで正確なフォーカス及びコントラストの明瞭なものとし, 表題と簡単な説明を付け, 横7.8cm, 縦6.0cmまたは横15.5cm, 縦10.0cmとする.

(エ) 写真には図と同様に一連の番号を付ける.

(オ) 図及び表は, それぞれ1つのファイルにまとめる.

エ 引用文献

(ア) 研究に密接に関係のあるものを引用する. 引用できる文献は, 学会誌, 専門的学術誌あるいは専門書とし, 学会抄録, 講演会テキスト, レフリー制度のない商業雑誌等は原則として引用できない.

(イ) 本文中では, 著者名の直後等, 引用箇所[1, 3-5]のように記載する.

(ウ) 文末に, 本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく. ①雑誌の場合は, 著者名(全員列記), 論文のタイトル名, 誌名, 巻, 頁(1箇所のみ), 年次(カッコ書き)とする. ②電子ジャーナルの場合は, 著者名(全員列記), 論文のタイトル名, 誌名, 巻, 頁(1箇所のみ), 年次, 入手先(原則としてDOI表示がある場合はDOIを, 無い場合はURLをカッコ書き), 入手日(「参照」として, 年月日を記載)とする. ③単行本の場合は, 著者(著者が複数の場合は, 引用した著者のみ), 記事のタイトル名, 書籍名, 訳者名(1名のみ記載し, その他は和文では「他」, 英文では「et al」とする), 編者名, 版, 頁, 発行者, 発行地, 年次(カッコ書き)とする. ただし, 著者名がない際は, 編者がいる際は編者名を, その他は, 学会, 研究会等の名称を記載する.

(エ) 和文誌名は原則として省略しない. ただし, 慣例的に使用されているものはこの限りではない(例:日獣会誌, 日獣誌など).

(オ) 欧文誌名の省略は, Journal Title Abbreviationsによる. 指定のないものは省略しない.

【雑誌の場合】

- [1] 青山太郎, 青山花子, 赤坂次郎: 子牛の開放性骨折の1例, 日獣会誌, 45, 115-120 (1992)
- [2] 青山太郎, 青山花子, 江戸三郎, 東京 愛: 犬のレプトスピラ症の抗原検出法, 日獣誌, 30, 135-138 (1992)
- [3] Aoyama T, Aoyama H: The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)
- [4] Aoyama T, Aoyama H, Kanda J: A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)
- [5] Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y: Pathogenicity of the aino virus in Japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)

【電子ジャーナルの場合】

- [1] 永田四朗: 犬ブルセラ症の検出法, 家庭動物の感染学会

誌, 25, 55-65 (2010), (<http://www.petzoonosis/article/25/1/1/pdf/s>), (参照 2013-04-20)

- [2] Williams A: Superinfection of bovine leukemia virus genotypes in Africa, cattle doctor, 50, 215-220 (2012), (DOI: 10.1695/cattledoctor.50.215), (accessed 2013-05-05)

【単行本の場合】

- [1] 神田一郎: マイコプラズマ, 獣医微生物学, 江戸三郎編, 第1版, 100-103, 青山堂出版, 東京 (1992)
- [2] Smith J: マイコトキシン中毒, 選択毒性, 赤坂次郎訳, 250, 学会出版センター, 東京 (1989)
- [3] Roitt IM: Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150-160, Grower Med Publ, London (1989)